

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学  
経営協議会（令和6年度第1回）議事要旨

1. 日 時 令和6年6月25日（火）13:00～14:38
2. 場 所 事務局3階会議室、オンライン会議
3. 出席者(参集) 塩崎議長  
加藤、太田、小谷、元平の各学内委員  
浅見、長谷川の各学外委員  
(Webex) 土井学内委員  
飯田、後藤、小紫、手代木、藤沢、ベントンの各学外委員  
欠席者 西村学内委員  
板東学外委員  
出席監事(参集) 西村、春本の両監事  
陪席者(参集) 蜂谷、石井の各課長  
(Webex) 井村部長  
久保（信）、久保（慶）、田中、筒井、東、多田の各課長
4. 配付資料  
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学令和6年度経営協議会委員一覧  
資料2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（令和5年度第4回）議事要旨（案）  
資料3 学長選考・監察会議委員の選出について  
資料4 常勤職員の定年延長について  
資料5 令和5事業年度決算  
資料6 令和7年度予算に係る運営費交付金概算要求について  
資料7 令和7年度施設整備費等概算要求事業（案）  
資料8 令和6年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学運営体制  
資料9 本学の主な動き（令和6年3月～令和6年6月）  
資料10 国立大学法人における会計監査人の選任について（通知）  
資料11 令和6年度外部資金の受入れについて

議事に先立ち、資料1に基づき、議長から新たに着任した学内委員の紹介が行われた。

## 5. 議 事

（前回議事要旨の確認）

資料2の令和5年度第4回の議事要旨（案）について、原案のとおり承認した。

（審議事項）

（1）学長選考・監察会議委員の選出について

議長から、資料3に基づき、経営協議会学外委員のうちから選出する学長選考・監察会議委員について説明があり、審議の結果、辞任する手代木委員の後任として、長谷川委員を選出した。

(2) 常勤職員の定年延長について

小谷理事から、資料4に基づき、常勤職員の定年延長について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(主な意見等は、以下のとおり)

- ・ 現行の満60歳に達した職員の再雇用は何年間実施することが可能か。  
→60歳に達した翌年度から5年間となる。
- ・ 既に職員の定年延長を実施している他大学からの評価やフィードバックはあるのか。  
→他大学でも昨年度に導入したところであるため、明確な効果等は聞いていない。
- ・ 定年延長となった職員にとって、やりがいのある仕事や能力が有効活用されるようなポジションを用意できるかが鍵となる。  
→本学の場合は定年延長の人数が多くないため、個別にヒアリングを行い、それぞれに合った業務に就いていただけるよう努力する。
- ・ 定年延長により役職定年となる者が部下になることで、新しく責任者となる者にとって仕事がしにくくならないよう、配慮及び環境の整備をお願いしたい。  
→これまでも再雇用職員が課長補佐級の職員として勤務している例があったが、問題は生じていない。ただし、今後、該当の職員が増えてきた時の事務局体制を大学として長期的に検討していくことが必要である。

(3) 令和5年度決算について

小谷理事から、資料5に基づき、令和5年度決算について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(4) 令和7年度概算要求(教育研究組織改革分、基盤的設備等整備分)について

小谷理事から、資料6に基づき、令和7年度概算要求(教育研究組織改革分、基盤的設備等整備分)について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(主な意見等は、以下のとおり)

- ・ リサーチトランスフォーメーション(RX)プラットフォームの構築事業に関して、令和9年度のスケジュールに基幹経費化という記載があるが、どのように経費を捻出していくのか。  
→現在は、教育研究組織改革分として令和9年度までは国から予算措置がされるが、そのままでは令和9年度で事業が終了となり、その後は予算措置されなくなる。当該事業で令和9年度まで積み上げた成果を根拠として文部科学省に基幹経費化の要求を行い、十分な成果として認められれば、令和10年度以降は予算要求をしなくても、基幹経費として措置されるようになる。
- ・ 外国人の雇用について、日本の給与が安いことに加え円安等の影響もあるが、問題はないのか、また外国人研究者にとって奈良先端大に来る魅力はあるのか。  
→給与に関しては特例措置を用意するとともに、今回はクロスアポイントメントによる雇用を考えている。RXサイクルの実装に関して、海外と日本が相補的に成果を出す土台作りが出来れば、魅力になると考えている。また、奈良先端大は外国人研究者に来ていただく環境が整っていると考えている。

・外国人教員が競争的研究費を日本で獲得する際に、言語の問題が考えられるが、支援体制はどのようになるのか。

→概算要求で、外国人教員の補助をする者の経費もあわせて要求しており、その方に専任でサポートしてもらおう。外国人教員を採用することで、国内外のファンドの情報交換を実施していく。

(5) 令和7年度施設整備費等概算要求事業について

小谷理事から、資料7に基づき、令和7年度施設整備費等概算要求事業について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(主な意見等は、以下のとおり)

・要求に対して、実際にどの程度採択されるのか。採択状況が厳しいと思われるが、採択されなかった場合は施設整備を先送りにするのか。

→ほとんど採択はされないため、自己財源を捻出して実施するしかなく、苦慮している。

(報告事項)

(1) 令和6年度運営体制について

議長理事から、資料8に基づき、令和6年度運営体制について、報告があった。

(2) 本学の主な動きについて(令和6年3月～令和6年6月)

議長から、資料9に基づき、令和6年3月から令和6年6月までの本学の主な動きについて、報告があった。

(3) 令和6年度会計監査人の選任について

小谷理事から、資料10に基づき、令和6年度会計監査人の選任について、報告があった。

(4) 令和6年度外部資金の受入れについて

太田理事から、資料11に基づき、令和6年度外部資金の受入れについて、報告があった。

以 上